

酪農学園大学と北海道札幌開成高等学校が高大連携協定を締結

酪農学園大学は、北海道札幌開成高等学校（札幌市東区）と「高大連携に関する協定」を締結しました。高大連携協定を結ぶのは、清水高校（十勝管内）に続いて2校目となります。

6月6日（金）に本学で行われた調印式では、谷山弘行学長と佐藤真理子校長が協定書に調印しました。

本学は高大連携事業として、高校への出前講義および本学が開講する高校生対象の授業を積極的に実施してゆこうと、昨年度から札幌開成高校コズモサイエンス科の授業科目「先端科学特論」に、本学の教授等が派遣され、最先端科学についての情報提供を行っており、今回持続的な連携を促進するために協定を結ぶことになりました。

具体的には、互いの教育活動に対する支援、共同研究の実施、既存の施設・設備の利用など協定の目的を果たすために必要なさまざまな取り組みを行ってゆき、今後は、本学が実施する授業に、札幌開成高校の生徒を「高大連携受講生」として受け入れ、所定の成績を修得した受講生には修了証を交付する予定です。

調印式修了後、試験問題作成管理システムサーバー「カッコ★ホルくん」が本学から無償提供されました。このシステムの開発を担当した遠藤大二教授（獣医学部）が佐藤校長らに操作方法を説明、本学の情報を高校にリアルタイムで発信する高大連携のツールとして活用されることが期待されます。

コズモサイエンス科は、理科、数学、英語を専門とする学科で、「環境科学」「野外観察」「先端科学特論」などの授業科目があります。今後も、「先端科学特論」として、電子顕微鏡の原理と基礎操作の講習や最新のバイオテクノロジー技術の講義、バイオマス技術の講義などを行っていく予定です。